広島大学病院ニュース

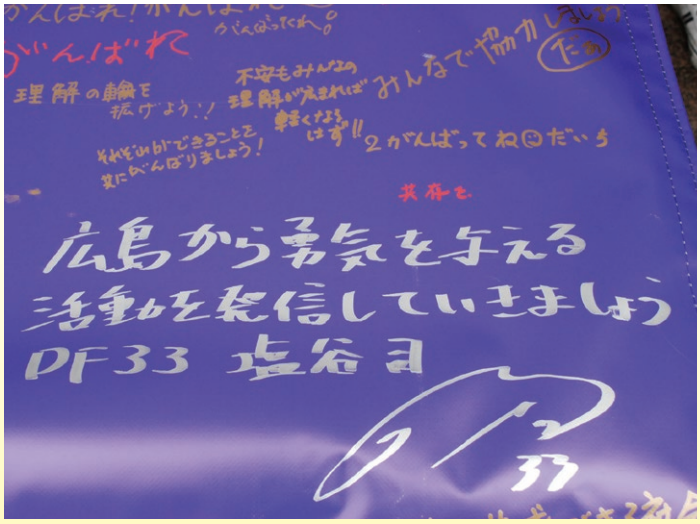
No.40 2016.10

ご自由にお持ち帰りください。

Hiroshima University Hospital News

てんかん疾患への正しい理解を

啓発活動で サンフレッチェ広島とコラボ



てんかん疾患啓発活動でサンフレとコラボ

てんかん疾患への正しい理解を

平成28年9月10日(土)サンフレッチェ広島の本拠地・エディオンスタジアム(広島市安佐南区)が紫色で染まりました。紫は世界的なてんかん疾患啓発活動である「パープルデー(Purple Day)」のイメージカラーです。

ラベンダーのパープル(紫)が、てんかんの国際的イメージであったことから、パープルデーと名付けられました。その紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島と広島大学病院(てんかんセンター)がコラボレーションをして、てんかん疾患の啓発活動に初めて取り組みました。

9月10日(土)は、広島カープの25年ぶりの優勝が懸かった日にもかかわらず、チャンピオンシップに進出できる年間3位以内に向け、ぎりぎりの戦いが続くサンフレッチェ広島を応援しようと、エディオンスタジアムには午後2時過ぎから熱狂的なサンフレファンが続々と集まってきました。

広島大学病院の飯田幸治てんかんセンター長らはスタジアム前のお祭り広場に、てんかん疾患啓発ブースを設置し、2種類の缶バッチの配布やサポーターによる寄せ書きの作成など、てんかん患者さんや家族、医療関係者などおよそ40名とともに協力を呼びかけました。寄せ書きにはマスコットのサンチェ君も一役、「それぞれができることを、共にがんばりましょう」「理解の和を拡げよう」など多くのサポーターに心温まるメッセージを頂きました。

また、スタジアムの大型ビジョンではサンフレッチェの佐藤寿人、青山敏弘、千葉和彦の3選手がビデオメッセージで出演し「てんかんを持つ方が、過ごしやすい社会を作っていきましょう」「てんかんをたくさんの人に正しい理解をしてもらえるよう、応援します」などと呼びかけました。なお、この3選手のビデオメッセージはYouTubeでもご覧いただけます。

佐藤寿人選手
https://www.youtube.com/watch?v=4tyHbiAEHWA
青山敏弘選手
https://www.youtube.com/watch?v=7VLmlMsPDYE
千葉和彦選手
https://www.youtube.com/watch?v=BOuSrR2n4JM
千葉和彦選手(医療関係者向け)
https://www.youtube.com/watch?v=2tU96jULmnU

今後は10月30日(日)の市民啓発セミナーで選手のメッセージを流したり、来年3月26日のパープルデー前後にエディオンスタジアムで啓発活動を行うことにしています。

サンフレの織田(おりた)社長も出席し記者説明会

10日(土)の啓発活動に先立って7日(水)、広島大学病院で行った記者説明会では、飯田てんかんセンター長が「医療者や患者団体による従来の啓発活動では広がりに限界があります。パープルデーのイメージカラーである紫がチームカラーのサンフレッチェ広島に協力をお願いしたところ、社会貢献の一環として協力してい

ただくことになりました。啓発活動が一層加速されることを期待しています」と話しました。サンフレッチェ広島の織田秀和社長は「市民に身近なスポーツ選手が発信するとこで、一人でも多くの方に理解が深まるきっかけになってほしいです。社会貢献の一環として、これを機会に様々な活動に協力していきたいです」と話していました。

日本のてんかん患者は、およそ100万人（100人に1人）といわれています。患者さんの多くは適切な診断と治療により、日常生活を普段通りに送っているものの、社会からの疾患への理解が乏しく未だに偏見が存在するため、てんかんを抱えていることを言い出せない現実もあります。

広島大学病院（平成27年度広島県てんかん診療拠点機関に指定）がサンフレッチェ広島とコラボレーションすることで、一人でも多くのサポーターやそのご家族に、てんかんに対する正しい理解を持っていただき、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現をめざします。

医療関係者ら約40名がボランティアで参加

飯田てんかんセンター長（左）織田社長

（てんかんセンターのご案内）
広島大学病院HP:http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/
てんかんセンターHP:http://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/chuoshinryo/tenkan/

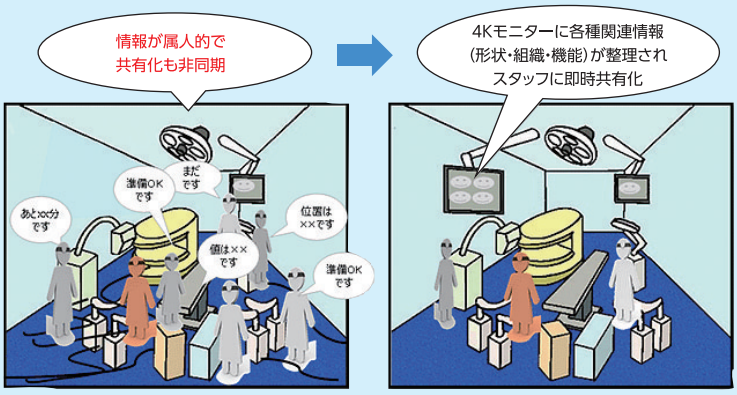
【パープルデーとは】
パープルデーとは、毎年3月26日に紫色の物を身に着けて、てんかんを正しく知ってもらおうという運動です。世界中で啓発活動が行われています。パープルデーは2008年、カナダの当時9歳だったてんかん患者のキャシディー・メーガンさんによって始められました。「てんかんのある人もみんなと同じ普通の人だということ。てんかんのある子供には、自分ひとりじゃないということを知ってもらいたい」というキャシディーさんの願いからです。

ニュースアップ

IoTが治療を変える ～スマート治療室を公開～

広島大学（広島大学病院）では、「スマート治療室」の基本仕様モデルが完成し運用を開始しています。平成28年7月18日（月）、記者説明会と撮影会を開きました。

広島大学は平成26年から5か年計画で、東京女子医科大学と国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）と共同で、安全性と医療効率の向上をめざす「スマート治療室」の開発を世界に先駆けて進めています。



「スマート治療室」開発のプロジェクトには、東京女子医科大学先端生命医科学研究所の村垣善浩教授を中心に、広島大学・信州大学・東北大学・鳥取大学の5大学と（株）デンソー・ミズホ（株）・（株）日立製作所・東芝メディカルシステムズ（株）・パイオニア（株）・日本光電工業（株）・エア・ウオーター（株）・（株）セントラルユニなど13社が参加しています。

スマート治療室

「スマート治療室」はIoTを活用して手術の進行状況や患者さんの術中データを統合・表示し、手術の精度と安全性を向上させるシステムです。

従来の手術室は、多種多様な医療機器がばらばらな状態でひしめき合っていました。広島大学の「スマート治療室」は、術中MRIを軸に基本的な手術機器、術中画像診断機器、患者生体信号機器などをパッケージ化することで、患部の状況をMRI等で確認しながら手術を進めることが可能になり、これまでより手術の安全性と精度が向上すると期待されます。

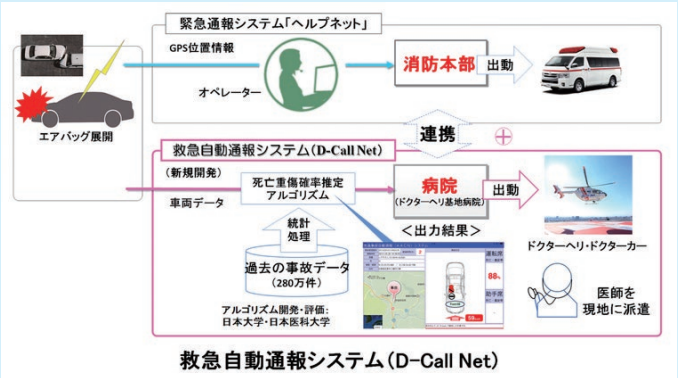
今後は、東京女子医科大学に設置された「最終目標モデル」のコンセプトを目指して、各医療機器の間で時間同期された術中のデータを統合・表示するネットワーク化による、さらなる安全性や精度の向上について検証を進めます。さらに、国内初の無線LANによる医療情報の一元管理化も進めており、患者さんのQOL改善にも貢献するものと期待されます。

救急自動通報システム(D-Call Net)導入へ机上訓練 ～交通事故での救命率向上へ～

広島県ドクターヘリ(広島大学病院が基地病院)では、平成28年7月28日(木)、緊急自動通報システム導入に向け机上訓練の模様を、広島ヘリポートで公開しました。この訓練には、消防機関などからおよそ50名が参加しました。

救急自動通報システム(D-Call Net)は、交通事故の発生と同時にいち早く事故を認知し、ドクターヘリが現場出動できるためのシステムです。

2015年11月30日より試験運用が始まり、現在全国13か所のドクターヘリ基地病院が参加しています。



救急自動通報システム(D-Call Net)

このたび広島県ドクターヘリ(広島大学病院が基地病院)では、関係機関へ事故情報を伝達する手順を確認する机上訓練を実施し、有効性が確認されたとして試験運用に入りました。試験運用への参加は、全国では14番目・中四国地方では2番目となります。

緊急自動通報システムの説明

救急自動通報システム(D-Call Net)は、現状の「ヘルプネット」をさらに発展させたものです。対応機器が搭載されている車両が衝突しエアバッグが開くと、衝突の方向・厳しさやシートベルトの着用の有無などのデータが携帯電話の回線を通じてオペレーションセンターへ送信されます。その情報を基に搭乗者の予測重症・死亡率が計算され、その情報がドクターヘリの基地病院へ送信されます。

訓練・ドクヘリ基地でのタブレット受信確認

消防覚知(当事者もしくは目撃者による119番通報)よりも早く、基地病院と消防が事故情報を把握でき、重症度の予測もできることから、交通事故での救命率向上が期待されています。

この救急自動通報システムは試験運用段階で、対応機器が搭載されている車両も少ないのが現状ですが、交通事故による死者数低減のため、国土交通省をはじめとした関係省庁や自動車メーカーも本格運用をめざして取り組みを進めています。

テレビ各局の取材を受ける救命救急医

栄養管理部
情　報

貧 血 あなたは大丈夫？

担当した管理栄養士

貧血のほとんどはヘモグロビンの材料である鉄が不足することによって起こります。
貧血になると全身の酸素不足になり、頭痛やめまい、体のだるさなどの症状が現れます。

食事から鉄を摂って予防しよう

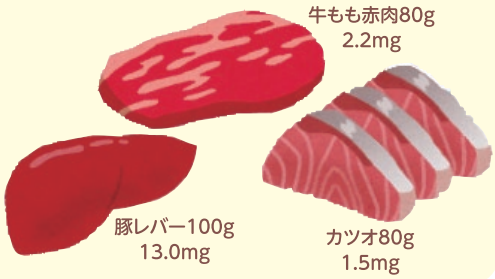
食品に含まれる鉄には「ヘム鉄」と「非ヘム鉄」の2種類があります。

ヘム鉄

吸収率：高い

肉や魚などの動物性食品に多く含まれています。

ヘム鉄の多い食品



非ヘム鉄

吸収率：低い

野菜などの植物性食品に多く含まれています。

非ヘム鉄の多い食品

鉄の吸収を促進する食べ物

「非ヘム鉄」は、牛肉やマグロなどの動物性たんぱく質やビタミンCを多く含む食品と一緒に摂取することによって吸収率を高めることができます!

ビタミンCの多い食品

鉄の吸収を阻害する食べ物

コーヒー、紅茶、緑茶などに多く含まれるタンニンは、鉄の吸収を妨げます。食事とは時間をずらして飲むようにしましょう。

鉄の過剰摂取に注意!!

鉄の過剰症を起こすことはほとんどありません。
しかし、サプリメントの摂りすぎによる吐き気や嘔吐、胃腸障害などの過剰症を引き起こす恐れがあるので注意しましょう。

病院からのお知らせ

ボランティア活動報告

広島大学病院は多くのボランティアの皆さんの善意にも支えられています。外来の受付案内や院内図書など6分野でおよそ40名の方が活動しています。今号は、小児科病棟でのボランティア活動を紹介します。

活動場所（小児病棟　プレイルーム）

サンタクロース

ハロウィン

カニ

ひな祭り

私達は、小児病棟で限られた時間の中、入院中の子供さんやご家族の皆さんに紙芝居の読み聞かせや折り紙などの遊びを通して、入院生活に潤いを持って頂けるようボランティア活動を行っています。

紙芝居は、「物語」や「季節のお話し」、「昔話」など幅広いジャンルのお話しを読ませて頂いています。参加された子供さんは、真剣に耳を傾けて聞き入り、時には笑ったり、時には驚いたりと私達も一緒に楽しませてもらっております。

折り紙は、ご家族の方も一緒に参加されることもあります。
「簡単な物」から「季節の飾り物」、「動きのある物」などを折ります。時には少し難しい物も有りますが、皆さん一生懸命に取り組まれ、うまく出来上がると大変喜ばれています。

この様なほのぼのとした雰囲気の中で毎回、子供さんの無邪気な笑顔に癒されながら、和やかな時間を患者さんとともに過ごさせて頂いております。

今後も入院中の患者さんやご家族に、少しでも潤いの時間を持っていただくことが出来れば幸いです。

活　動　日　月 2回（第2、4水曜日）　14時～15時
活動場所　小児病棟　プレイルーム
活　動　員　5名

小児病棟仲良し広場ボランティア　坂田　美穂

催しのご案内

（2016年10月～12月）

がん治療を支える 患者サロン

皮膚がんの基礎と治療について
10月20日（木）　13:30～14:30
場所：臨床管理棟3階 3F2会議室
講師：皮膚科医師　河合　幹雄

－がん治療を支える－ がん患者の家族のケア
11月17日（木）　13:30～14:30
場所：臨床管理棟3階 3F2会議室
講師：がん看護専門看護師　石原　美紗子

－がん治療を支える－ がん治療と運動
12月15日（木）　13:30～14:30
場所：臨床管理棟3階 3F4会議室
講師：理学療法士　筆保　健一

患者・家族が同じ目線で がん患者おしゃべり会

10月25日（火）　13:30～14:30
11月22日（火）　13:30～14:30
12月27日（火）　13:30～14:30
場所：診療棟2階　健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082－257－1525

ご意見やご感想は下記へお願いします。
広島大学病院　総務グループ　〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号　☎082－257－5418

16103